

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に 最近9年間(2003年-2012年)に漂着したウミガメ(爬虫類)

久保田 信*・田名瀬 英朋**

Shin KUBOTA and Hidetomo TANASE: Stranding records of sea turtles on Kitahama beach
of the Seto Marine Laboratory, Kyoto University, Shirahama,
Wakayama Prefecture, Japan in the recent nine years (2003-2012)

白浜半島の先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の北側に位置する通称“北浜”(砂浜部の長さは約400m)で、クラゲ類・貝類・魚類・植物の種子などの漂着調査を毎日のように実施してきた(久保田, 2006 参照)。今回, 最近の9年間に死亡漂着したウミガメ類の記録を表1にまとめた。種の同定および測定は, 全て田名瀬により実施された。

その結果, 過去9年間に3種13個体のウミガメ類の雌雄が北浜に漂着し, アオウミガメが最多の記録となった(7個体)。平均すると年に2個体未満の割合で, 頻度も個体数も多くはなく, 漂着が記録されなかった年(2010, 2009, 2005年)もあった。この記録のなかでは, タイマイが2007年のみの記録であったのが特筆される。ウミガメ類の生きたものではなく, 死亡直後の個体も稀で(わずか2個体のみ), 死後数日から相当日数が経過し腐敗が進んでいたり, 白骨になっているものがほとんどであった。なお, 2003年12月34日に発見したアオウミガメ幼若個体は, 漁網にからみ窒息死亡漂着しており, 死亡原因が特定できた。

白浜町近郊への過去30年間の漂着記録(1968年-1997年)を, 田名瀬(1997)が北浜では毎日のように調査し, そのまとめを含めて報告しているが, 北浜への漂着にしばると, アカウミガメ4個体が4回(1980年, 1986, 1993, 1997), アオウミガメ3個体が3回(1984年, 1990, 1995), タイマイ1個体が1回(1995年)記



図2 瀬戸臨海実験所北浜に2011年6月6日死亡漂着したアオウミガメ



図1 瀬戸臨海実験所北浜に2012年2月1日死亡漂着したアカウミガメ

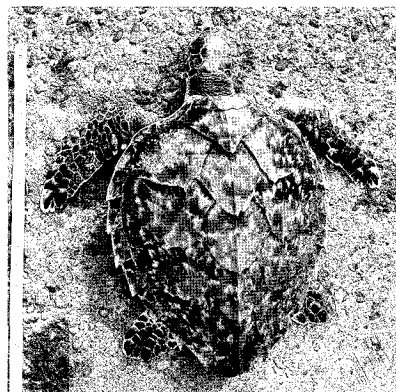


図3 瀬戸臨海実験所北浜に2007年11月17日死亡漂着したタイマイ

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町676

表 1 瀬戸臨海実験所 “北浜” に漂着したウミガメ類 (2003 - 2012 年)

漂着 年月日	直甲長 (cm)	直甲幅 (cm)	直頭幅 (cm)	性	その他
アカウミガメ					
2012.02.01	86.3	64.7	17.3	雄	右前肢欠損
2007.04.17	71.7	56.8	14.8	雌	腐敗膨張
2006.03.29	90.4	71.2	18.9	雄	新鮮
2006.03.12	71.9	60.6	14.8	雌	腐敗膨張
アオウミガメ					
2011.06.06	41.2+ a	40.8+ a	測定不可	不明	白骨化 (頭部・四肢なし)
2011.02.19	43.8	34.9	－	不明	鱗板剥離
2008.01.22	51.4	42.2	－	雌	腐敗膨張・鱗板剥離
2007.02.04	57.1	44.2	9.9	雌	腐敗膨張・鱗板剥離
2004.02.23	45.3	測定不可	6.9	不明	鱗板剥離・四肢腐敗
2003.12.24	44.6	35.4	7.4	不明	腐敗膨張・鱗板剥離
2003.03.19	53.1	40.2	8.6	雌	腐敗膨張・鱗板剥離
タイマイ					
2007.11.17	27.1	22.2	4.4	不明	新鮮
2007.02.11	31.4	26.1	測定不可	不明	鱗板剥離・四肢腐敗

－： 未測定

録されており、今回の結果と同様に、過去においても個体数も頻度も少ない。しかし、今回の調査期間は過去の3分の一の期間であるので、各種ウミガメの漂着個体数を1968年から1997年の期間（A）と2003年から2012年の期間（B）の値を年間平均値として換算比較した。その結果は、アカウミガメ（図1）：（A）0.13 個体／年，（B）0.56 個体／年，B/A=5.6；アオウミガメ（図2）：（A）0.10 個体／年，（B）0.78 個体／年，B/A=7.8；タイマイ（図3）：（A）0.03 個体／年，（B）0.20 個体／年，B/A=6.7 となり，3種とも2003年から2012の値（B）が6倍から8倍ほど増加している。その理由としては、次の3項目が考えられる：（1）いわゆる温暖化などによる北浜沖への来遊数の増加によって死亡数も増加；（2）漁獲被害による死亡数の増加；（3）地域住民や行政機関の希少生物に対す

る意識の増加によって研究者への連絡が密になった。今回の記録からは、どれ（ら）とも判断ができなかった。

謝 辞

貴重な情報をお寄せ下さった白浜町農林水産課、瀬戸臨海実験所の皆様、特に太田 満氏と山本泰司氏に深謝致します。

引 用 文 献

久保田 信. 2006：“宝の海から 白浜で出会った生き物たち”. 233 pp. 紀伊民報, 和歌山県.
田名瀬 英朋. 1997：白浜町(和歌山県)近郊に漂着・混入・迷入したウミガメ類, 瀬戸臨海実験所年報, 10, 23 -26.